



2009年6月発行

サポート通信



活動成果発表会を開催 10グループが1年間の活動を報告

第10回千代田まちづくりサポート活動成果発表会が、3月7日(土)、ちよだプラットフォームスクウェア5階会議室で開催されました。助成を受けた、トライアル部門1グループ、一般部門9グループから、1年間の個性ある活動についての報告があり、会場から大きな拍手が送られました。今年度は、学生主体の活動が多く、神田での野外音楽ライブ、外濠でのエコポートツアー、橋の景観を再発見するウォーキングなど、若者のパワーを生かした様々な活動内容が発表されました。また、今回初めて助成を受ける活動が3グループありました。1年間を通して、よくできたことや、できなかったこと、問題点や課題についての発表がありました。審査会委員からの質問を受け、回答しているメンバーの姿を見ると、1年間の成長が感じられました。今後の活動に期待したいと思います。

10周年記念イベントを開催

「企業との新たなつながり」をコンセプトに、10周年記念事業が平成20年11月15日(土)ちよだプラットフォームスクウェアにて開催されました。当日は、社団法人日本フィランソピー協会の高橋理事長による基調講演「企業が組みたい相手になるために」にはじまり、現在も活躍を続けているまちづくりサポート卒業グループ(5グループ)の活動発表(写真右上)と企業のCSR部門の方々によるコメントがありました。今後の活動発展に向けた企業との協力についてのポイントやヒントなど、気付けられることが多くありました。また、これまでの活動事例や他の自治体等での助成事業などを紹介する「交流コーナー」や、千代田区長にもご出席いただいた懇親会(写真右下)の場で、助成グループはもとより関係者を交えた交流が図られました。その他にも、10周年の取り組みとして、「千代田まちづくりサポート10年のあゆみ(まちづくりサポート通信合冊記念誌)」や「10周年記念事業『企業との新たなつながり』(記念事業記録冊子)」、「まちづくりサポート10周年記念DVD(事業PR用DVD)」を作成しました。

CONTENTS

活動成果発表

[トライアル部門]

- 日本の農業に一生を賭ける!
学生委員会(SOLA) 2

[一般部門]

(1回目)

- NPO法人 WEL'S 新木場 2
- NPO法人 ちぎゅう市民クラブ 3

(2回目)

- helpus! (ヘルパス) 4
- 神田フェーダー・ニュートラル 4
- 食育.街行く研究会 5
- NPO法人 地図文化研究会 6
- SOTOBORI CANAL WONDER 6
- C-bridge 7

(3回目)

- 神保町応援隊 8

審査会委員講評・総評

ニュース 11

審査会委員・賛助会員一覧 12



1

江戸風の食農イベント ―江戸風土システム―
(日本の農業に一生を賭ける！ 学生委員会(SOLA))

今年度の活動報告は江戸風土システムについて、「春を巻こう」と題し、野菜を収穫し、白菜の巻き寿司を作った。地域の子もたちといっしょに地域のイベントとして開催した(写真)。夏には、春に植えた小松菜を収穫し、それを調理して食べ、さらにナスとトマト、土について学び、植えつけの作業をした。先日は、大根の収穫をし、調理をして食べた。

このような野菜を育て、調理し、食べるという一連の活動を提供し、定期的にイベントとして開催している。そのために年間を通じて旧今川中学校を使わせていただき、町内会と連携して、花壇の管理もしている。

マスコミには、日本農業新聞と大学新聞などに活動を掲載してもらった。会計報告としては町内会からも2万円助成



してもらえた。食費が3分の1以上占めているが、なんとか遣り繰りができた。今後の活動としては、神田町内会と連携を深め、町内会

に学生部が発足されるので積極的に参加していきたい。花壇、畑をさらに充実させ、町内会で管理が難しくなっているので、私たちが管理し、活用させてもらうことになっている。また、若者の間に広めるために、他大学農学部系のサークルとの交流を図っていく。農的若者のネットワーク団体の運営にも積極的に参加している。まだできたばかりの会だが、今

後ともご支援をお願いしたい。

Q) トライアル部門の活動としては上出来だと思う。町会の学生部というのはす



ごいことで、完全に地域に密着している。ただ、なぜ神田、旧今川中学校でやるのか、その意義は？

A) 農業というと、農村のイメージが強いが、東京の中心神田で、文化の発祥の地で、農業を広めたい。

Q) 旧今川中学校の校庭をまだ、使い切っていないので、校庭全部を畑にするつもりで頑張してほしい。

Q) 学生団体なので、後輩へ代替わりするのはうまくいくのか？ また旧今川中学校から、外へ活動を広げていくことは考えているか？

A) 4月で初めて代替わりを迎えるが、それをうまく引き継いでもらい、現在30名の会員が増えてくれることを目指している。将来は旧今川中学校だけでは足りなくなるかもしれないので、ぜひ千代田区内に広げていきたい。

Q) たとえば、OBの会員たちはどうなるのか？

A) この会の発起人だった社会人の人を通して、学生だけでなく社会人にも働きかけ、いっしょにやっていきたいと考えている。

一般部門 助成1回目

2

障害のある人の社会参加と地域交流ができる緑地管理とカフェの設置
(NPO法人 WEL' S新木場)

まちづくりサポートの団体、SOLAといっしょに旧今川中学校で活動し、主に地域の清掃をしてきた。また、ちよだプラットフォームスクウェアの屋上の緑地管理と、訓練生の活動としてイベントにもカフェを出店し、地域の人たちと交流した。(参加訓練生の発表) 屋上で植物に水をやり、葉を切り、専門の人に教えられて、種植えをした。パラソルを立ててかき氷を作る練習もした(写真)。掃き掃除や、落ち葉や吸い殻を集めてきれいにした。

お祭りではコーヒーの販売をし、たくさん声を出して、お

金も貰いうれしかった。お昼には、近所の店でインドカレーを食べた。ハーブのきれいな葉を選ん



で摘み、乾燥させて粉にした。屋上は風があって大変だったが、とてもいい香りがした。レモンバームの石鹸作りは、

来週ちよだプラットホームスクウェアの会場で行う。ぜひ参加してほしい。

Q) このサポート活動で、福祉関係のグループは少ないので、期待が持てる。2年目に向けて、もう少し地域交流ができるための新しい考えはあるか？

A) 実際に活動して当初のイメージとは違い、難しい課題も分かった。地域が困っていることと我々が困っていることが必ずしも一致しない。それを一致できればニーズがあると知った。地域の課題を聞きながら、それに合ったものを提案できればと思う。

Q) この活動にはすごく期待している。ぜひ考えてほしいのは、障害を持った人の働く場は緑地管理など可能性があると思う。企業にとっても社会還元として考えている所もあると思うので、外に対して絶えずアピールしてみてはどうか。千代田としてもそれをサポートして行け

れば、活動の広がりは出てくる可能性があると思う。実際に地方の役所などにもカフェなどで



実例がある。緑地管理で具体的なプランはあるか？

A) 都内の企業でもやってはいるが、まだ実際の職場がないというのが現状。来年は、ここでの活動の情報を発信していきたい。モデルガーデン的な役割を持っていると思うので、企業や自治体と関係を創っていければと思う。また、カフェではクッキーを仕入れて配る予定。来年度は区内にあるカフェやパン屋さんとも連携していきたいと思っている。

3

多国籍居住時代・異文化理解によるこれからのまちづくり人材の養成 (NPO法人 ちきゅう市民クラブ)

12月12日に、イラン大使夫人の講演と親睦会の文化フォーラムを千代田区民ホールで開いた。朝日新聞での告知や区の広報、まちみらい千代田の告知協力もあり、当日は100人を超える参加者があった。イスファハンなど歴史遺産の観光DVDの上映や「新しいシルクロード」と題した大使夫人のペルシャ語での講演の後、活発な質疑応答がなされた。イランのサフラン茶とお菓子での交流も自由で和やかに行われ、参加者から好評で、お礼のメールをもらった。

1月には翹町小学校の授業の中で、文化フォーラムと関連付けたイランのワークショップを開いた。

2月には、翹町幼稚園でインドネシアのワークショップを、昨年に続き行った。特に民族楽器で竹製のアングルンを振って演奏するのを参観の母親にもやってもらい、次に園児たちがやって、全員参加で盛り上がった。この楽器は1人が1音階を出すので、集団で、きらきら星などを演奏することがその場でできた。このように楽しみながら、将来まちづくりにも参加する人材を育成する活動を今後も続けていきたい。



Q) 活動が千代田区民に受け入れられてよかった。サポートはどのような点で役に立ったか？



A) もちろん費用のサポートも助かったが、各団体とのコラボレーションの道が開けたり、千代田区にも大変お世話になった。今後の課題として、学校での授業をもっと増やしたい。6月に助成を受けて年度内に実施するのが時間的に厳しい。だが、さらに働きかけて実行していきたい。

サポートの助成が3年で終わったあとも、活動をやっていけるようにPTAなどとも協力していく道を探り、区民を対象にした活動もさらに広げていきたい。

Q) サポートの助成以外の収入は、会費などからのものか？

A) 寄付金が主で、会員が少ないので会費は少ない。寄付金を集めるための事業もやっている。

Q) 区民ホールを借りることができたのはなぜか？

A) 千代田区の国際平和・男女平等 인권課や、まちみらい千代田の協力が得られたからで、サポートのおかげだ。

Q) 今後はより千代田区に根付くように、千代田区から交流を発信して、がんばってほしい。区内にある大使館との協力ができればいいのでは？

A) 今回もインド大使館などに声をかけたが、スケジュールが合わなかった。学校も大使館も早めに働きかけて、密なコミュニケーションをとりながらやっていこうと考えている。

4

地域と学生のネットワークを創出する (helpus!ヘルパス)

10月のお茶ノ水アートピクニックの企画・運営をした(写真)。出店を出すことで、一般の人たちの参加や商店街の方



のまちづくりについても話を聞くことができた。

「できることカタログ」については、地域の方や学生の意見が自分たちが考えているのとは違ってきた。最初は、地域と学生両方のできることのコンテンツを盛り込もうとしたが、学生は活動の場や後継者不足に悩んでいることが分かった。一方、地域では、学生を歓迎していることが分かったので、学生の視点で制作した。それが好評だった。完成したものをどうするかだが、今のところ町やビル案内所、イベント会場などに置く予定だ。今後も、神保町応援隊と協力して、フリーペーパーの作成を継続していくことになった。

Q)冊子はセンス良くまとまっている。この「できることカタログ」の使い方を具体的に説明してほしい。

A)商店街のイベントなどで、学生の力を借りたいがどこに頼みに行けばいいかわからないとき。このカタログを見れば、どこに言えばいいかわかるようになっている。

Q)きれいすぎて驚いた。ただ、もっと、できることが目に飛び込んでくるようなカタログを期待したい。まちの人が気付かないようなことを、まちづくりのために、もっとアピールしてほしいと思う。

Q)センス良過ぎて、「できることカタログ」のインパクトが弱くなった。もっと学生らしさを押し出してほしい。また、学生の会の後継者がいないのはなぜか?どう分析するか?

A)日本大学に問題があるのではないかと思う。言い訳かもしれないが、大学には告知の場もないこともある。

Q)大学に関係なく、ぜひ創ってほしい。いろいろと無尽蔵にできると期待しているので、ぜひ。

Q)創ったフリーペーパーは、誰に対して、どうやって配ろうと考えているのか?それが重要ではないか。

A)商店街と学生の集まる場所、三省堂やCDショップなどを考えている。他の大学にも置いて行こうと思う。



Q)部数も少し足りない。なるべく広く、うまく届くようにしてほしい。

5

もっともっと輝けおっちゃんの街・音楽を通じた特色ある街づくりプロジェクト2 (神田フェダー・ニュートラル)

まちを元気にするには、まずは、おっちゃんを輝かせることが必要。地域住民の柱となる神田のおっちゃんが輝くこと。地域資源の活力が地域活性化には重要で、それなしには地域のカラーや輝きを増すことはありえない。

「ロジヨコライブ」(写真)では、路上での音楽演奏を介して、おっちゃんの輝きを引き出した。現場では、お酒も入り盛り上がったが、まだ工夫が足りない。仲間作りも大切で共存する仕組み作りが大事だ。ロジヨコライブは居酒屋やライブハウスでも開かれ、演奏者と地域住民のネットワークも生まれた。

商店街の青年部がロジヨコライブに合わせ、ワインズバーを開いた。ロジヨコ探検隊では大型カメラを使い、ビデオの作成と公開がされて、想定外な参加者も多かった。さらにネットワークが強まり、広がることを目指す。

3回目「街づくり演習」ではフィールドワークを中心に「よ

そ者・若者・ばか者」が加わって、まちづくりがどう変わったかを学んだ。知らぬ者同士でも、粘り強く会話を重ねていくことが大切。地域資源



を再発見し、発信する共通の価値観を持つことも必要だ。

地道な活動が商店街連合につながり、第1期神田ストリート祭りに象徴される異なるグループによる新たな街づくりが始まった。

Q)来年も活動は続けるか?新メニューや神田土産はようになったのか?

A)活動の幅を広げ過ぎて手が回らず、ポイントを絞り切れなかった。

- Q) 今後、整理して再出発に向け活動を見直すというが、少しだけ修正すればよいのではないかな？
- A) 枝分かれした活動が、それぞれに発展していけばいいと考えている。ひとまず整理して、今後を考えたい。
- Q) やりたくてもできないことが多かったのは具体的になぜかな？時間が足りないとか、課題の大きさとか、理由は？
- A) いろんなことを併行してやろうとすると、人も時間も足りなかった。
- Q) では、サポートの制度に問題があったのではなく、活動する団体の体制が整わなかったということか。



6

食をテーマに観光、学ぶ、遊ぶを通して街の活性化にとり組む (食育。街行く研究会)

食をテーマにする活動は、地産地消、スローフード、食の安全など、いろいろあるが、現実にまちづくりといっても各団体の違いにより壁があり、中へは踏み込めない。その壁を壊すことから始めようと、目には見えない垣根を飛び越すことが今年のテーマだった。

神田の伝統食である蕎麦をとりあげ、神田の17店舗の蕎麦屋の汁を一堂に集めて「きき汁」を開催。

11月3日は小学館主催の江戸検定に合わせて神田食大学を開く。江戸の歴史や文化をテーマに各有名店舗の歴史的建造物の中で食事をしながら、店主の話聞いた。

11月6日には、神田錦町三丁目第一町会ランチマップ(写真)を1万部発行。まちづくりの基盤であり、一番強固な地域の町会に店舗情報を発信した。神田公園地区HP「大好き神田」や千代田区観光協会のHPにも載った。同地区町会長会議で承認、配付された。

12月30日、江戸神田蕎麦の会発行の「江戸老舗神田蕎麦地図」に協力する。同業種団体の活動としてPR。

2月に、「神田小川町・錦町老舗案内」(写真)を1万部発行。町会と商店会の枠を超えて、地域の創業50年以上の親子2代にわたり営業している店に、東京電機大学の「でんでん虫」グループが取材、編集して作った。神田への思いや食へのこだわりを織り込んだ小雑誌。垣根を超えた団体が協力して、人々が千代田区に来た時、食にはこれだけ、楽しみ、学び、食べることができるというパターンを示してきた。



- Q) この雑誌は、どんな所に置くのか？
- A) すべての公共機関、図書館、出張所、保健所、掲載されたお店、神保町の案内所などに広く配置した。
- Q) 雑誌やマップは読み物のように楽しい。活動の目的は、どのくらい達成できたのか、分かりやすく説明を。
- A) 神田で食事するにはどこがいいか、実際に役に立つ情報誌を創りたかった。電機大学の学生さんの協力を得た。このようなガイドマップがどの店にも在り、学生も一般の人も食を楽しみに神田にくる。店も人も増えることが町の活性化だと思っている。
- Q) 雑誌に載ったお店は町会に入っているのか？入っていない店の紹介は？
- A) 一応、創業50年以上として選んだのは新しいお店はすぐ消えてしまうので困ったことがあったから。
- Q) 食の安全など、食育の要素をもっと入れてほしい。食育と老舗マップとの間にずれがあるのでは？メンバーの広がりがないのも気になる。
- A) 行政と同じことをやってもだめで、サポートならではの活動をしたが、今年は、まずマップ作りをした。
- Q) 来年は、それに載ったお店で食育のワークショップ等の活動をぜひしてほしい。期待している。
- A) 行政から、たとえば子どもたちへの食育活動を求められれば、すぐ対応できるようにしたい。

7

地図を活用した魅力ある“まち” 千代田の実現 “子どもたちの安心と安全を目指す自転車マップ” (NPO法人 地図文化研究会)

昨年度に続き、地図を活用したまちづくりを実施。まず8月に開催した学習会では、我々が集めた千代田の情報を地図を介して参加者に提供した。

また、まちづくりに参加することを目標に地図を読みこなす能力を得る方法を指導。併せて今年度はどういった市民参加型のマップを作るか、具体的内容について意見交換した。その結果、子どもたちが安心・安全に過ごすために必要な知識を(防犯、自然、交通ルールなど)自転車に乗りながら学べないか、というコンセプトに達した。それで今年度は比較的住宅地の多い麴町エリアを対象にして、マップを作成した。



子どもたちが自ら町を自転車で回りながら、安心・安全を習得するには何らかの仕組みが必要になる。そこで、この地

域に多い大使館に注目し、それらの国々の情報(国旗、地図上の位置など)を学べる地図にして、大使館を巡りながら、知らず知らずのうちに必要なことが学べる仕組みにした。

試作図を携えて、20名の方が、モニタリングに参加(写真)。参加者からの意見と講師の指摘を踏まえて図を完成した。

地図の作成に一般市民の意見を取り入れたことは珍しいので、来年度は行政とも協働してマップの区内での活用を進め、さらに、まちづくりへと発展したい。

Q) まちづくりのテーマとこのマップづくりとが結びつかない。地図を使ってのまちづくり活動として、来年度以降の計画はあるのか?



A) 地図作成の途中で、一般市民参加型の活動をしている。従来の地図は行政が創って市民が利用。区民にとっては、受け身の地図を介した情報。一般市民が創った地図として行政にもコンセンサスを得て実用化する。その地図を使い、自転車で周遊することで市民が行政の気付かないことを指摘し、結果としてまちづくりにつながる。それによって、活動への区民の参加が増えると考えている。

Q) 一枚の大きな地図より、冊子にした方が見やすいのではないかと?

A) 盛り込みたい情報が多く、大きめに作ったが、見やすさも考えていく。

Q) 地図の作成過程で学習会やモニタリングをやった試みはおもしろい。もう少し手作り感や参加者の姿が見えたらと思う。地図を使って大使館巡りはいいが、区内を自転車で廻る気にはなれない気がする。市民を活動に引き込む工夫が見えない。そこをぜひ、次やってほしい。

8

歴史遺産外濠を伝え、活用する (SOTBORI CANAL WONDER)

去年は外濠の魅力を伝え、活用できる場にしようと活動してきた。今年は、それを外部にも広げようとして、地域との交流を持った1年間だった。

4月はオーガニックフェスタin東京に出展し、水をテーマに外濠の風景や活動のパネル、動画を展示。16日には日本橋川、神田川に流れる外濠の水質浄化活動としてEM菌



団子を投入し、継続的な活動を行ってきた。

外部の人に伝えるためにも、5、7月は外濠名所図会、江戸城外濠再発見な

どのワークショップ。10月の水上コンサート、ボート体験イベント(写真)、11月は都水辺空間シンポジウムに出展した。

また2月には外濠マップを発刊し、外濠周辺の歴史やお店のコンテンツを盛り込んだ。このマップを通して、地域とも連携していきたい。活動をさらに理解してもらい、情報を発信するために「外濠活動冊子」を印刷し発送。

来年度はより地域と連携した活動を考え、新たなイベントを計画している。以前からの願いで、小、中学生にも外濠を体験してもらいたいと思う。

Q) 地域の小、中学生の体験イベントが実現できなかったのはなぜか?

A) 外濠の水源使用許可が取れなかった。飯田橋近くの水上レストランと折り合いがつかなかった。

- Q) 困難な点はあるだろうが、子どもたちと何かできないだろうか。
- A) できれば何かやりたいと考えている。
- Q) たとえば子どもたちと、EM菌投入コンテストなどは？
- ポートに乗ってでもいい。また、広報についてもサポートしてほしいというが、どのような期待をしているのか？
- A) サポートの下部組織へもチラシなどを出してほしい。
- Q) チラシを出張所などに置くことは可能なので検討してみる。
- Q) 子どもや地域の方たちといっしょにやることを楽しみにしている。
- Q) 月に1回のイベントをやるのは大変なこと。マスコミにも取り上げられ、ご苦労さま。地域にイベントとして定着していけばと思う。他に成果は、アカデミックレベル

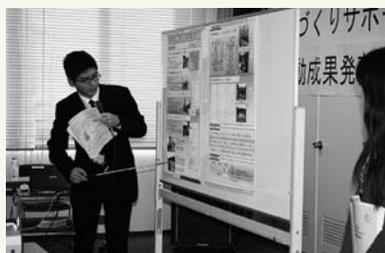
- でももあるか？
- A) 活動を反映させて、外濠の歴史を伝える冊子を作ったのは、アカデミックな研究からまちづくりに発展させた成果かと思う。
- Q) これらの活動をやってみて、外濠に対する考え方は変わったか？
- A) 参加者の感想に、「日常の視線とは異なる見方で、外濠から見る東京という感じ方が体験できた」とある。それは一番大きい事かと思う。



9

橋を視点として考える千代田の観光まちづくり (C-bridge)

今年の活動は、「ブリッジウォーク」と「船による橋めぐり」(写真)を通して行った。下調べをして実施し、各自のペースで橋のディテールや周辺環境を見ることができた。徒歩では、参加者は自分の好きな橋の細部を写真撮影したり眺めたりした。船は、動いてしまうので長い時間は橋を観察できないが、水面から橋を眺めるので、普段とは違った



視点で見ることができた。

中間発表で指摘された点、イベントの告知が徹底されていないということについて

は、新しくブログを開設し、不特定多数の人にも見ていただけるようにした。なぜHPではなくブログにしたかという、イベントの告知がすぐできることと、感想を書き込んでもらえるからだ。その意見を活動に反映させることができる。

各イベント終了後アンケートをして、橋に関する評価を7段階で表記してもらった。その平均値をだして橋ルートの魅力度を判定した。特に「橋への親しみやすさ」は、両方のイベントに参加したことで、橋の解説により歴史や橋の側面や裏側を知り、親しみやすさが増したようだ。

特に皇居周辺のコースは多くの橋を眺めることができ、「橋の歴史」に高い評価値が出た。それが昨年との大きな違いだった。

まとめとしては、両方のイベントをワンセットで行った方がいいことが、昨年との比較から分かった。また、「橋めぐり」において、親しみを持つためにも解説者の存在が重要であることもよく分かった。

今後の目標として、季節の違いによる橋と水辺の環境の

観察や測定を、地域の人たちと共に行っていききたい。

- Q) 興味深い結果が出て、観光まちづくりのヒントとなる活動としてよいが、このデータをどうかすのか？すでに観光ルートの試作になるようなものがあるか？それを行政に提案するのか？

- A) 皇居周辺のルートはアンケート結果でもずば抜けて人気が高い。観光ルートとしては欠かせないのには明らかだ。研究結果として、行政にも提案したいと思う。

- Q) 参加者は町の人でも増えているのか？
- ブログもいいが、その先がまちづくりとして見えてこないといけない。また今後のサポート事業に、事務的な支援を望むとあるが、どういうことか？

- A) イベントを多くの人に知ってもらうためにも、もっと広報などで広く知らせてほしい。

- Q) 人件費の解説者謝礼とは代表の伊東孝氏か？ならば、少し高額なので、節約はできないか？

- A) 伊東氏はボランティアだが、他の人に一人1万円ほどをお願いした。その人数分の費用だ。

- Q) もっと今後はまちづくりの提案に力を注いでほしい。この活動は大学でやる研究ではないかという意見があった。市民に働きかける活動だという前提で助成決定に選ばれた。それだけに来年は、ぜひ、その先に何をやるか、よく考えてほしいと思う。



- A) 貴重なご意見を参考に、来年もがんばりたいのでよろしく願います。

10

よそ者(神保町応援隊)と若者(学生)と住民と商店街、知恵と力を合わせましょう。
そして神保町を元気ある街にしましょう (神保町応援隊)

3年間活動してきた。今年1年でやったことは、インターネットラジオ収録、フリーペーパー「おさんぼ神保町」の発行とそれに連動したウェブでの情報発信、「神保町本と街の案内所」でのガイド、文化活動として読み聞かせ、紙芝居など。まちの方との交流では、1月の雪だるま祭り、5月のすずらん祭りの参加、7月は七夕(写真)、10月のブックフェスティバルなどは企画から参加した。

今年の新たな活動は、リニューアルした商店街「新グリーンアリー」の完成記念イベントの応援。観光・環境講座では会員がパネリストを務めた。

これからの目標は、もっと気軽に参加してもらえるように「ちょいボラ」感覚で活動に加わってもらおうこと。

また、基本に戻って、まちのお掃除もやる予定。今後も、あくまでも応援隊の形で、まちの人から応援隊はもう要らないよといわれるまでやっていきたい。みなさんにお世話になり、ここまで来たが、これからも続けるのでよろしく。



Q) 3年間で想像以上に活動の輪が広がり、内容も充実し、多彩になった。まちサポを代表する団体になったが、最初から話題になった1コインでの会費制は、それで継続的に会員になるかという問題がある。今後の活動を続けるためにも、会費制を今後どうするか?何か妙案はあるのか?

A) 最初は1コインが入りやすいが、やはり2年目以降は会費を集めるのが大変だった。振り込みでは、500円の会費に手数料が210円かかる。そこで企業の協賛金を集めようと考え、現在30社ほど契約している。これを50社にするのが目標。一般会員は500人が目標だったが、まだ270人。これが課題だと思う。とにかく、今後、企業の参加数を増やすのが目標となる。

Q) この3年間での信頼を元に、更に企業にも働きかけ、まちのキーパーソンも巻き込んで、どんどんやってほしい。

【山崎委員】

約一年間の今年度の活動、お疲れ様でした。各グループそれぞれに一生懸命やってくださったと思います。

今日の成果発表を聴かせていただきますと、ほぼ当初の予定通りの活動を達成された団体、また、中には当初の予定通りにはなかなかうまくいかなかった団体、いろいろな課題があった団体など、いろいろあったかと思います。ちょっと、活動を傍観してしまったという場合もあったかもしれません。ただ、そうだからと言って、そのような経験というのは、大切なことではないでしょうか。あまりうまくいかなかったような場合は、その理由を考えたり、十分に反省されて、それを次回に活かして、新たな企画を考えて、またやっていってくださればいいのではないかと思います。

それから、今回で3年間の活動を終了し、卒業されます神保町応援隊ですが、千代田区のまちの活性化について、まちづくりサポート事業の団体としては、ダントツの活動をしたと思います。それは誰もが認めるところだと思いますが、卒業されたこれからも、ぜひ、さらにいっそう輪を広げていってほしいと思います。

またご意見としては、参加グループが様々なイベントをする時に、区の一般職員の参加が少ないという声がありました。これは大変残念なことで、今後は、より広く積極的に声をかけるなどして、参加を図りたいと思いますので、今後ともよろしく願います。

【服部委員】

皆さん、お疲れ様でした。きょう最後に発表されました「神保町応援隊」の活動は、ほんとうに、このまちづくりサポート活動を象徴するような団体の活動だったと思います。任意団体で、自分たちで持ち出しもして頑張っていて、あれだけのことをやってしまうというのは、すごい団体だなと思いました。

もう一つは、去年の「ちぎゅう市民クラブ」のみなさんが、有名なアーティストを呼んでイベントをやるといので、それはまちづくりのサポート事業とは違うのではないかと申しました。それで相談して、活動があのような形になったのだと思います。それでも、イラン大使館の夫人などがほんとうに何かしてくれるのかしら、その話が面白くて人が多くあつまったりするのかしら、とも思ったりしていました。それが大盛況でした。そこで素晴らしいのは、お話が面白いのももちろんですが、情報量も多くて、私の知らないことがいっぱいあり、すばらしかったです。さらに、たくさんの参加者の方が何らかの形でイランに縁



があり、関係を持ち、関心があって自らもスピーカーになりお話をしたりしたことです。お互いに情報交換ができたのです。つまり、そこで行われた活動というのは、一方的に講演会をして、勉強会をして、情報が発信、伝達されて、そこで終わったのではないわけです。そこから交流と行動が生まれていく感じが見てとれて、そこがよかったのだと思います。

きょうの発表を聞いていても、いろんな活動や団体が生まれて、すてきなツールができて、それはすばらしいことでした。それはそれとしていいのですが、あの時のように、またこれらのツールがどこかで使われて、一人一人の行動が発展したりとか、新たな活動につながっていくのではないかと思います。

それこそがまちづくりサポート事業であり、みなさんの成果なのだと実感しました。今後とも、みなさんのご活躍と、まちサポが発展していくことをお祈りしております。ありがとうございました。

【中嶋委員】

1年間を通じて、このまちづくりサポート事業の活動を見させていただきました。きょうの発表も、とても感動的でした。自分たちが企画したものが、初めは心配していたがうまくいったとか、あるいは、やっていた中で、いろんな人が支えてくれたとか。また、活動がうまくいってはいたがそれなりに問題はあり、悩みは深く落ち込んでいたが、きょうここにきて発表し、みんなの話を聞いていたら、応援されていることが分かり安心したとか。さらに、評価されてもいると知ってうれしかったとか。

そうしたみなさん方の感情の機微とても申しましょか、心の高揚が伝わってきて、そのような発表をたくさん聞いて、私は感動いたしました。とてもよい活動成果発表会だったと思います。

このようなまちづくりの活動が千代田区の中に広まっていていよう、この会に委員の一人として参加させていただいたことを、非常に幸せに感じました。どうも、ありがとうございました。



【谷委員】

お疲れ様でした。

私は、委員としては初めて参加いたしました。それまではサポート活動に応募する側で、トライアルのグループとして活動させていただきました。それで、みなさんを見てみると、大変だなあと、つい自分たちの活動のことを思い出したり、その時のことが甦ったりして、感じてしまったのです。みなさん、すごく一生懸命なされていて、1年目、2年目、3年目と活動を見ておますと、やはり、3年目というのはすごい。1年目



はよくぞがんばった、という感じですし、2年目だってすごいわけですが、2年目からさらにここまで、よくがんばったなあと、すごく感じました。ですから、1年目の方も2年目に向けて、2年目の方も3年目に向けて、まだがんばれるのだということが分かります。どうぞ、来年もがんばってください。それを楽しみにいたしております。

私の住んでおります麴町地域は、活動グループがぜんぜん出てこないのですが、私も活動グループとして参加したいと思うほどです。ですが、審査会委員の役割がありますので、そうはいきませんけれど。

どうぞ、みなさん、どなたか麴町地域の人たちにも声をかけて、お誘いください。よろしく申し上げます。

【田熊委員】

とにかく、みなさんお疲れ様でした！感想としては、個々にはいろいろ意見もありますが、それは懇親会でと思います。

私も、服部委員と手をつないで今年で委員を退任ということになるはずで、花束をいただく予定でしたが、諸般の事情でもう一年務めさせていただくことになりました。今回は、厳しい審査会委員として、公開審査会に臨みたいと思います。ご意見にもあったよう



に、区民の叫びである「区民のために本当に必要な活動に、支援資金を」ということで、見ていこうと思います。市民レベルの、千代田まちづくり活動であるかどうか、それが原点であり、その辺の所を、来年も参加される方々は、注意していただければと思います。

それから、きょうの資料や要望などを見ますと、区の広報活動へのサポート支援の要望などが多いようです。私も今回審査する前に、千代田のみなさんのブログやホームページなどをいろいろ調べてみたのですが、全部に目を通すのは大変な作業です。そこで、何か1つにまとまったものがあればいいなと非常に感じております。

もし、まちづくりサポートのウェブサイトのようなものがあれば、サポートを受けた各グループのイベント情報なども見られるし、すでにウェブを持っているグループはそこにリンクして見られるような、まちづくりサポートのプラットフォームがほしい。そういうのがあれば、みなさんの交流もできるし、情報発信もできる。いろんな千代田区がらみの業界、商店街、すべての場ともリンクして、発信できる。そんな風にしたらどうかと思います。

最後に、まさにウェブのキャラクター、マスコットの「千代助」、千代田を助ける「千代助くん」ですが、これを中心に、神田の「カン助くん」、神保町の「ジン助くん」、麴町なら「コウ助くん」というように、助さんネットワークをつくり、「助さん・ネットワーク・サービス」ということで、「SNS」などというのを創ってはどうかと感じました。

ほんとうに、みなさん、千代助くんのように笑顔で、楽しい活動であり、きょうの発表でした。

総評

【鈴木会長】

最後になりますが、全体の講演をさせていただきます。

毎年、1、2の団体は、「これはちょっとどうかな？このままで大丈夫かな？」と心配になるものですが、今年の団体は、ほぼすべてのグループがきちんと活動され、よくやってくれたことが手に取るようにはっきりわかりました。そういう意味では、全体としてのレベルが高かったように思います。

ほんとうに実に多種多様なイベントや多彩な活動が見られ、このまちづくりサポート事業のすそ野が広がったように思います。参加した団体は例年より少ない10グループだけでしたが、トータルすると、50から60のイベントが開催され、ひよっとするとのべ5000人から6000人くらいの人に関わったのではないかと思います。ちなみに千代田区の人口が46000人ですから、その中の5000～6000人というのは、ものすごく大きな活動の意味を持つと思います。

どこかで、5000人を集めるイベントのために1千万円くらいのお金をかけたという話があるくらいです。それを考えると、まさに草の根というか、市民の力が人のつながりを産み、その結果、活動の盛り上がりを引き起こしたのだということが実感されました。



また、ここ数年の傾向ではありますが、各グループ同士がよく繋がっていると思います。お互いが関連して活動し、手伝ったり、されたりしてコラボレーションが盛んになったことがとても特徴的なことだと思います。

それはそれでいいことなのですが、その一方では、自分たち団体の固有な活動というものは何なのか、ということがまた、求められると思うのです。やはり、自分たちのやりたいことをハッキリ持つということが、コラボレーションをすればするほど、大事になるのではないかと私は思います。そういう意味では、今年3年目の神保町応援隊のグループは、神保町を元気にするという自分たちの明確な目標を持っておられたこと、それに地域が何を求めているのか、というのもよくわかっていました。つまり、自分たちのやりたいことと、地域の要望と、その両方を的確にきっちり把握していたことが成功の秘訣だったのではないのでしょうか。ですから、来年度のまちづくりサポートに参加される方々は、もう一度自分たちのやりたいことは何か？そして地域が求めていることは何か？それを頭の中に入れて、みなさんと話し合っ、活動計画を創って、応募していただけたらなあと思います。

本日はお忙しい中、みなさま充実した活動の発表をさせていただきまして、審査会委員を代表いたしまして、私からお礼を申し上げます。長い時間、どうもありがとうございました。来年度も、よろしく願いいたします。

サポート大賞は「神保町応援隊」

審査員と参加団体の投票により、サポート大賞が「神保町応援隊」に贈られました。「よそ者と若者、町会と商店街。知恵と力を合わせて神保町を元気ある町に！」をテーマに、地域コミュニティ誌「おさんぼ神保町」(第6号4万部)の発行や、お祭りの応援をしたことで、まちの活性化に大きく貢献しました。



修了証の授与

「神保町応援隊」に修了証が授与されました。修了証は、三回にわたる助成を受け、ユニークな発想と実践活動がコミュニティの活性化に大きく貢献した活動の証として贈られます。これまで築き上げた独自の活動について、今後も引き続き展開し、市民まちづくりの輪が大きく広がることを期待しています。



審査会委員の退任

今年度もちまして服部委員が審査会委員を退任されます。財団から感謝状、CSC(千代田まちづくりサポーターズクラブ)から花束が贈呈されました。服部委員は第8回から第10回までの3年間、審査会委員としてまちづくりの向上に尽力されました。長い間ご協力ありがとうございました。これからも、まちサポの活動に対しまして、ご指導ご支援くださいますようお願いいたします。



交流会

成果発表会終了後、CSC(千代田まちづくりサポーターズクラブ)主催の「交流会」が開催されました。ここでは、発表会とは違った雰囲気の中、助成グループや審査会委員など約50名の方々が集まり、これまでの活動内容や今後の取り組みなどについて語りあいました。まちづくりを担う仲間同士、活動の輪が広がる場となりました。



さぼてんWALK SHOP 記録誌完成

CSCは、「さぼてんWALK SHOP」の5年間の活動をまとめた冊子、「まちづくりの現場を歩く5年の記録」を完成させました(写真)。この記録には、計6回にわたり訪ねた、全29グループの活動が紹介されています。

CSCは、千代田まちづくりサポートの助成を受けたグループの有志で構成されています。千代田まちづくりサポートを「サポート」する団体です。趣旨に賛同頂ける方は、どなたでも参加できます。

助成団体が区制表彰を受けました

区制62周年記念日(21年3月15日(表彰式は13日))に、「花咲かじいさん(第2回～第4回助成)」、「CAPPS(キャップス、第7回～第9回助成)」が分野別功労者の「生活環境功労者」として表彰されました。助成グループでは初めての表彰となります。



「花咲かじいさん」は、早稲田通りの花鉢の設置やその世話など、花を通じてこころ豊かなふれ合いを深めるための地域活動を行っています。

「CAPPS」は、常盤橋公園での清掃活動やチューリップ、水仙の植え付けなど公園の環境美化活動を行っています(写真)。

この二つのグループは、千代田区のアダプト制度*も利用し、活動しています。

*アダプト制度とは、自治体が管理する道路や公園等の公共施設の一部について、行政との協定に基づき、町会や企業、団体等が自発的、自主的に管理、清掃を行うものです。

審査会委員 (敬称略)

- 会長 鈴木 伸治**
(横浜市立大学国際総合科学部准教授工学博士)
- 副会長 早田 宰**
(早稲田大学社会科学総合学術院教授工学博士)
- 委員 田熊 清徳**
(神田芸祭実行委員長)
- 服部 素子**
(社団法人 日本フィランソロピー協会)
- 谷 眞理子**
(千代田区青少年委員)
- 中嶋 利隆**
(大手町丸の内有楽町地区再開発計画推進協議会 事務局長)
- 山崎 芳明**
(千代田区政策経営部長)

(財)まちみらい千代田 賛助会員一覧

2009年4月 現在

*本事業は下記の法人会員と個人会員の支援で運営されています。<賛助会員募集中>

【法人会員】		【個人会員】	
業 種	会 員 名	業 種	会 員 名
金 融	興産信用金庫	建 築 設 計	(株)アール・アイ・エー
	大和証券(株) 本店営業部		(株)ADプロジェクト
	(株)東京都民銀行 神田支店		(株)関東設計
	(株)東日本銀行 飯田橋支店		(株)共立エステート
	みずほ信託銀行(株)		(株)楠山設計
建 築 土 木	(株)大林組 東京本社	(社)東京都建築士事務所協会 千代田支部	(株)都市環境計画研究所
	大林道路(株) 関東支店	(株)パシフィックコンサルタンツ(株)	(株)ポリテック・エイディディ
	五洋建設(株)	(株)ラウム計画設計研究所	
	清水建設(株)	コンサルタント	NPO法人都市住宅とまちづくり研究会
	大成建設(株)		NPO法人マンション管理支援協議会
	(株)竹中工務店	そ の 他	(株)三菱総合研究所
	中央建設(株)		秋葉原商店街振興組合
	(株)ナカノフドー建設		秋葉原中央通商店街振興組合
前田建設工業(株)	(株)イサミヤ		
不 動 産	エヌティティ都市開発(株)		神田古書店連盟
	協永(株)		(株)デザインファクトリー
	(株)久保工		東洋美術印刷(株)
	住友不動産(株)		フィールファイン(株)
	三井不動産(株)	富士ゼロックス(株)	
	三菱地所(株)	プラットフォームサービス(株)	
	安田不動産(株)	(株)メディアリンク	
緑花・環境	日産緑化(株)	ヨシモトポール(株)	
広告代理	(株)フィレール		
電気・通信	ウェブリオ(株)		
		青 木 孝 次	三 浦 博 子
		安孫子 政 夫	三 浦 浩
		安 藤 岩三郎	三 原 久 徳
		池 俊 郎	宮 寺 孝 臣
		伊 澤 優	三 輪 瑛 子
		伊 東 敏 雄	山 崎 泰 廣
		犬 伏 真	渡 邊 和
		今 川 守	清 水 玲 子
		浦 田 泉	塚 越 茂
		岡 田 貫 伍	野 間 善 治
		角 地 登志子	田 村 崇 彰
		加 藤 武 夫	阿 部 武 志
		木 村 進 一	北 澤 悦 子
		小 林 勝 彦	中 川 典 子
		佐 藤 正 幸	他10名
		須 藤 昭 雄	
		瀬 川 昌 輝	
		立 山 光 昭	
		戸 田 豊 重	
		二 木 憲 一	
		早 川 平 典	
		藤 本 琢 巳	
		堀 部 剛 正	
		松 島 弓 子	
		松 波 道 廣	

(法人:48 個人:49 計97)